

## 後期基本計画

### [1] 教育・文化

～歴史と文化が薫り英知を育む村～

---

1. 教育の充実
2. 生涯学習・スポーツの振興
3. 文化の振興



山田谷川の石碕

## 1. 教育の充実

### 現状と課題

- 恩納村幼児教育振興計画を策定し、食事や睡眠の規則正しい生活リズム等の基本的生活習慣の確立をめざした「よく食べ、よく遊び、よく眠る」を目標に幼児教育活動に取り組んでいます。
- 幼稚園教育の充実をはかるため、幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいた研修会の充実等に取り組むとともに、幼稚園教育と学校教育を円滑につなげるため小学校との連携にも取り組んでいます。今後、より効果的な連携方法を検討しながら幼稚園教育の充実に努める必要があります。
- 園児へのきめ細かい支援を行うため、特別支援員の配置等、低年齢からの支援の充実をはかり、障がいを持つ園児の円滑な教育に取り組んでいます。今後も一人ひとりの教育的ニーズや発達の課題の的確な把握による支援を行う等、支援を要する園児の教育に取り組む必要があります。
- 多様な保護者ニーズに応えるため、全幼稚園で預かり保育の拡充および保育時間の延長を行いました。
- 学校教育では、学習支援員の配置や児童生徒の学習レベルにあった学習指導の工夫・改善に取り組むとともに、教職員の資質向上をはかる等子ども達の学力の向上に努めており、今後も学力の向上に向け取り組みを進めていく必要があります。
- 小・中学校においても障がいを持つ児童生徒が安心して充実した学校教育が受けられるよう、特別支援学級の設置および特別支援員の配置を行っています。さらに、児童生徒や家庭への支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置し、きめ細かい支援を行っています。しかし、近年は支援を要する児童生徒が増加傾向にあり、特別支援員の増員等を協議する必要があります。今後は、支援を要する児童生徒の個々に応じた教育計画に基づく、継続的な支援が求められています。
- 近年、偏った栄養摂取、朝食欠食などの食生活の乱れや肥満・痩身傾向など、子どもたちの健康を取巻く問題が深刻化しています。こうした現状を踏まえ、学校教育では給食の時間を通して、食育の指導に取り組んできました。引き続き、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、食育に取り組むとともに、食を通して地域への理解深化、食文化の継承等をはかることが必要です。
- 学校教育では、学校・家庭・地域と連携をはかり、子ども達の健全育成および基礎学力の定着に取り組んできました。今後も、学校・家庭・地域が協力しながら、子ども達の豊かな心の育成、健康・体力の向上、確かな学力の向上に取り組むとともに、子ども達の学習意欲の向上をはかる必要があります。
- 沖縄科学技術大学院大学関係者の人材活用による放課後英語教室の開催、恩納小学校において英語教育特例校の指定を受け、英語教育の充実に取り組んできました。今後は、英語教育特例区を全校への拡大等、村内全域で英語教育の充実に取り組む必要があります。
- 子どもたちの職業観等の育成をはかるため、恩納村漁業協同組合をはじめ村内事業所等

と連携し、キャリア教育に取り組んでいます。

- 子ども達がより良い環境のなかで学ぶことができるよう、校舎の改築や情報関連機器の充実等に取り組んできました。今後も、継続的に施設の維持管理に取り組むとともに、情報関連機器や各種備品の更新を行う必要があります。
- 各学校では、年1回、学校防災計画に基づき児童生徒および教職員を対象とした避難訓練を実施し、津波発生時の避難経路の確認および検証を行う等、災害に備えた活動を行っています。
- 中学校については平成22年12月に「教育振興審議会」を設置し、統合に関する検討を進めてきた結果、平成32年4月の開校に向け、各種取り組みを進めています。
- 全国的に学校と保護者、地域がともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入が進んでおり、本村においても導入に向けた検討を行う必要があります。

## 基本方針

幼稚園、小学校、中学校が連携し、確かな学力の向上に取り組むとともに、恩納村の次代を担う子ども達が、社会の変化に主体的に対応できる「心・知・体」を身につけることができるよう、学校・家庭・地域が一体となった教育環境づくりを推進します。

学校施設の充実や中学校の統合等による教育環境の充実をはかります。

## 施策の展開

### 1) 幼稚園教育の充実

- 基礎的な生活習慣の形成等、集団生活や遊びを通して発達の状況に応じた幼児教育を推進するとともに、保育所、幼稚園、小学校の連携をはかる等幼児教育の充実に取り組みます。
- 保育所との連携を密にし、特別支援員の配置等により障がいを持つ園児のサポートに取り組めます。

### 2) 学校教育の充実

- 指導主事の派遣による教職員の指導力の向上、学習支援員の配置等によるきめ細かな学習指導を行うことで、子ども達一人ひとりが自ら学ぶ意欲を持ち、確かな学力が身につけられるよう学習指導の充実をはかります。
- 先進地視察研修や講師招聘による研修事業、スキルアップ研修等の実施により教職員の資質向上に取り組むことで、子ども達の学力向上をはかります。
- 特別支援員の配置等により、障がいを持つ児童生徒でも安心して学校教育が受けられるよう取り組みます。
- スクールソーシャルワーカーを配置し、不登校等の支援を要する児童生徒および家庭等への継続的な支援を行います。
- 食事の重要性、心身の成長、健康の保持増進等、望ましい食生活のあり方等の指導の充

実、地産地消の推進等による食育の推進をはかります。

- 学校・家庭・地域と連携をはかりながら、子ども達の豊かな心の育成、健康づくり、体力の向上、確かな学力の向上に取り組むとともに、「未来塾」の開催等により、子ども達の学習意欲の向上をはかります。
- 今後の国際化に対処するため、国際的に活躍できる人材育成に向け、英語教育の充実をはかります。
- 子ども達の学ぶ意欲の向上、望ましい勤労観・職業観等の育成をはかるため、キャリア教育の推進をはかります。

### 3) 教育環境の充実

- 既存施設の維持管理および更新を行うとともに、情報関連機器や各種備品等の更新および充実をはかります。
- 防災教育の充実および避難経路の確保、防災マニュアルの見直し等に取り組むことで、子ども達が安心して学ぶことができる環境づくりに取り組みます。
- 子ども達の教育環境の向上をはかるため、中学校統合に向けた取り組みを進めます。
- 学校と保護者、地域が協働で子どもたちの豊かな成長を支えるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の導入について検討します。

## 2. 生涯学習・スポーツの振興

### 現状と課題

- 様々な学習ニーズに対応するため、目的や世代別等による地域公民館講座等を提供してきました。今後も、地域のニーズや課題等に対応した教室や講座の提供に努めるとともに、生涯学習に対する村民意識の高揚に取り組む必要があります。
- 健康づくりに配慮したスポーツの振興をはかるため、地域でのスポーツ教室や軽スポーツ大会を開催してきました。今後も、誰でも気軽に取り組めるスポーツの普及、発展に取り組むとともに、健康づくりと連携したスポーツ意識の高揚に取り組む必要があります。
- スポーツ競技力の向上をはかるため、村体育協会、県外大会へのスポーツクラブチームの派遣や個人選手に対する支援を行うとともに、スポーツ指導者の確保に取り組んできました。今後も、各種団体等の県外派遣に対する支援および指導者の育成に取り組む必要があります。
- 村では毎年、韓国プロ野球団のキャンプにあわせ子ども野球教室を開催する等、プロ選手と触れ合う機会を提供しています。平成22年度からは新たに韓国サッカーナショナルチームのキャンプが実施される等、多くのプロ選手が恩納村を訪れています。今後も、キャンプの機会を活用しながらスポーツの振興をはかる必要があります。
- 地域における生涯学習や生涯スポーツを促進するため、婦人会や青年会、体育協会等各種社会教育団体等との連携をはかるとともに、各種団体の指導者の養成等に取り組んできました。今後も引き続き、活動の核となる各種社会教育団体等の活動を支援する必要があります。
- 村内には赤間総合運動公園やコミュニティセンター、博物館・文化情報センター、ふれあい体験学習センター、各字の公民館等、多くの生涯学習関連施設が立地しており、学習やスポーツの場として開かれています。今後は、各施設の役割分担を明確にしながら、施設の活用充実に努める必要があります。
- 村では国際交流派遣事業や自然体験学習等を実施するとともに関係団体と連携をはかり「地域の子どもは地域で守り育てる」ことを基本に、青少年の生活リズム改善や非行防止を目的とした夜間街頭指導を行う等、青少年の健全育成に取り組んできました。今後とも子ども達の自主的な活動を支援し、社会性・協調性を身に付けた青少年育成に努める必要があります。
- 村内には沖縄科学技術大学院大学や沖縄宇宙通信所等専門的な研究機関が集積しています。これら機関では、「うんなまつり」でのブースの設置や夏休みでの公開講座等により、子ども達との交流が進められています。今後も、これら機関との連携をはかりながら恩納村の特色を活かした学びの場の提供に取り組む必要があります。
- 平成22年3月に「恩納村図書館推進委員会」を設置し、図書館整備に向けて取り組んできました。平成27年4月には、図書館機能だけでなく観光情報発信機能を備えた「恩納村文化情報センター」が開館しました。
- 赤間総合運動公園は、プロ選手のキャンプやアマチュアスポーツ大会等で活用されてい

ます。この間、村民の利用を促進するために『赤間総合運動公園周辺整備基本構想』に基づき、ウォーキングコース等の整備を行いました。今後は、村民の健康づくりのための拠点として広く活用を促す必要があります。

## 基本方針

村民が生涯にわたって生き甲斐をもって充実した生活を送れるよう、目的や世代、性別、地域別等に応じた多様な学びやスポーツの機会の提供を通して、地域の実情に応じた各種団体の育成をはかります。また、沖縄科学技術大学院大学等の学術機関との連携をはかりながら、英語をはじめ国際的語学力を身に付けた幅広い人材育成に取り組めます。

さらに、博物館・文化情報センターや赤間総合運動公園等の生涯学習拠点施設の充実をはかり、恩納村らしさを活かした「いつでも、どこでも、だれでも」学べる環境づくりを進めます。

## 施策の展開

### 1) 生涯学習講座の充実

- 地域や時代のニーズ・課題にあった学習内容の提供に努めるとともに、講座成果が活かされた地域活動等の紹介を行う等、生涯学習に対する意識高揚に努めます。
- 学習発表の場の充実や学校支援ボランティアとしての活用等、生涯学習で得た知識・技術の地域還元を促進します。
- 観光や沖縄科学技術大学院大学等による海外からの来村者との国際的交流に備え、英語をはじめとする多言語学習を推進します。
- 海浜や干潟、サンゴ礁など本村の豊かな自然環境を活用した自然教育や環境学習の機会の提供を行います。

### 2) 生涯スポーツの振興

- 定期的な体力測定等の実施等、健康づくりを意識した軽スポーツの普及・促進をはかるとともに、関係団体と連携をはかりながら各グループの自主的な活動を促します。
- スポーツクラブチームの県外派遣や競技レベルにあった指導者の育成等、各種スポーツの競技力の向上に取り組めます。
- キャンプに訪れるプロスポーツ選手との交流機会を推進し、子ども達の競技力の向上および村民がスポーツに親しめる機会の確保に努めます。

### 3) 各種社会教育団体等への活動支援

- 指導者養成研修会、地域リーダー研修の開催等、各種社会教育団体等の人材育成に取り組むとともに、これらの活動を通して団体間や世代間の交流を促進します。
- 子ども会、婦人会、青年会など各種活動団体の実態把握を行うとともに、活動に対する支援を行います。

#### 4) 青少年の健全育成

- 子ども達の自主性・社会性・協調性を育むために、子ども会活動への支援を行うとともに、交流事業や体験事業等の実施に取り組めます。
- 関係団体との連携による、夜間街頭指導の実施やジュニアリーダー育成事業等を通して、将来を担う人材の育成に取り組めます。

#### 5) 生涯学習拠点施設の充実

- 各生涯学習拠点施設の役割の明確化を行うとともに、施設情報の提供の充実をはかる等、各施設の利用を促進します。
- 沖縄科学技術大学院大学や沖縄宇宙通信所等村内に立地している各専門機関と連携をはかりながら、恩納村の特色を活かした学習機会の提供に取り組めます。
- 博物館・文化情報センターについては、隣接する恩納村農水産物販売センター（おんなの駅 なかゆくい市場）と連携したイベント等の実施を行うとともに、適切な資料管理に取り組むことで、村民をはじめとした利用者への多様な情報発信を行います。
- 赤間総合運動公園については、村民のスポーツ・健康づくりの拠点としての施設利用を促進します。

## 3. 文化の振興

### 現状と課題

- 博物館は自然、歴史、文化等を発信する生涯学習機関であり、その活動は本村に関わりのある資料の収集、整理・保存、展示、教育普及および調査研究があります。村内の方々からの寄贈や収集活動により、本村に関連する資料も年々増加していますが、今後とも収集や購入等により収蔵資料を増やし、展示の充実をはかる必要があります。さらに、こうした資料を活用し、常設展示や企画展、各種講座、芸術鑑賞等をとおして、調査研究成果等の公開を行うことで、ふるさと学習の拠点となるよう施設としての活性化をはかり、本村の文化の向上と発展に寄与できるよう努めていく必要があります。
- 山田城跡は平成 20 年 4 月 1 日付国指定文化財に指定され、山田城跡の保存活用に向け、平成 21 年度から『山田城跡保存管理計画策定事業』を実施しました。今後は、保存範囲や保存手法について検討を行うとともに、緩衝帯（バッファゾーン）となる周辺環境の保全施策の導入についても検討しながら、基本構想、整備計画等を策定し、計画的な保存・整備・活用の推進をはかる必要があります。
- 地域にある山田城跡に関する知識を深めてもらうため、毎年、山田城跡や座喜味城跡、中城城跡を巡る「親子文化財めぐり事業」を実施しています。そのなかで真栄田の御待毛から仲泊の一里塚までの一里区間の歴史の道を歩き、仲泊遺跡や山田城跡といった祖先が残してくれた貴重な文化遺産に触れながら、地域の文化財について学ぶ地域学習等に取り組んでいます。今後も恩納村のシンボリックな文化財である山田城跡、国頭方西海道、

仲泊遺跡、万座毛の活用をはかるとともに、村民および村内外に対して広く周知と理解を促進する必要があります。

- 文化活動や生涯学習等と連携した文化の振興をはかるため、<sup>うんな</sup>恩納ナビーの舞台上映や文化財案内マップの作成を行うとともに、各地域の豊年祭等の紹介やボランティアガイド「道の会」による本村の文化財を巡る歴史散策等が行われています。今後も、文化財や伝統芸能活動を活かした学びの場やイベントの開催に取り組むとともに、文化的資源となる文化財の保護、維持管理に努める必要があります。

## 基本方針

恩納村の誇りある歴史文化の継承と活性化をはかるため、歴史資源の保存・活用や身近に触れる機会の提供等、ふるさと学習や観光との連携を深めることで文化の振興をはかります。

## 施策の展開

### 1) 博物館活動の充実

- 恩納村の自然、歴史、文化等に関する資料の収集、整理・保存に努め、これらの資料を活用して博物館の常設展示や企画展、講座等の充実に取り組むとともに、生涯学習の拠点として博物館の利用促進に努めます。

### 2) 山田城跡等の保存整備の推進

- 山田城跡の近隣に所在する国指定史跡「仲泊遺跡」や「国頭方西海道」等の文化財を活用し、山田城跡を中心とした保存整備に向け推進をはかります。
- 山田城跡の緩衝帯（バッファゾーン）として、城跡周辺の環境保全施策の導入を検討します。
- 村内外に対し、山田城跡への理解を深めてもらうため、様々な機会を通して山田城跡に触れる機会の提供を行うとともに、周知活動に取組みます。
- 万座毛、番所跡、比屋根坂等の沖縄の自然・歴史遺産、また御願所、ウディオガマ等の各地域に伝えられる文化財の周知と保全および活用をはかります。
- 万座毛については、万座毛保存管理計画の策定を行い、同計画に基づき保存活用を行います。

### 3) 文化活動・生涯学習等と連携した地域文化の振興

- 地域の文化財を活かした文化活動や生涯学習等様々な場面をとおして、本村の歴史や文化に触れる機会を提供します。また、恩納村文化協会への活動支援を行うとともに、琉歌、<sup>うんな</sup>恩納ナビー、吉屋チルー、しまくとうば、ハーリー、エイサー、豊年祭等の地域文化の保存・継承に取り組めます。
- 恩納村を訪れる人々が、本村の文化財や地域の伝統文化に触れられるよう、村内の文化財や地域の伝統行事等の情報発信に取り組むとともに、ボランティアガイドの育成、文化財の保護や維持管理に努めます。